

人のぬくもりと
ふれあいが奏でる躍動のまち
丹波高原文化の郷●京丹波

広報 京丹波

KYOTAMBA

No.62
12月号

2010年12月15日発行

彩り鮮やかに色づく
秋の丹波路を力走



特集 町長と語るつどい



今月の表紙

さわやかな秋晴れの下、京丹波町の秋の一大イベントである「京都丹波ロードレース」が、今年も盛大に開催されました。(関連記事を9ページに掲載)

特集

町長と語る

町民のみなさんとの対話を重視した新たな取り組みである「町長と語るつどい」を、九月十三日―十一月十三日までの二か月間において町内二十四会場で開催し、八百十四人(「表1」参照)の方に参加いただきました。

つどいでは、平成二十二年度予算と主要事業、下水道使用料の改定について説明した後、参加されたみなさんと懇談形式でまちづくりについて意見を交わしました。今回のつどいの中でいただいたご意見やご質問など、主なものをお伝えします。



■町長と語るつどい参加者数(表1)

会場名	開催日	参加者数(人)
和知地区	わち農村環境改善センター	9月13日 20
	わち林業センター	9月14日 33
	広野公民館	9月17日 25
	細谷共同集会所	9月21日 23
	大倉文化センター	9月22日 34
	篠原体育館	9月27日 21
和知ふれあいセンター	10月 2日 13	
瑞穂地区	三ノ宮基幹集落センター	9月28日 23
	質美振興センター	9月30日 32
	山村開発センターみずほ	10月 4日 48
	八田公民館	10月 5日 27
	梅田振興センター	10月14日 39
	鎌谷中公民館	10月15日 36
	妙楽寺公民館	10月18日 32
瑞穂保健福祉センター	10月23日 16	
丹波地区	下山集会所	10月19日 56
	清涼館	10月21日 30
	蒲生区集落センター	10月28日 38
	竹野基幹集落センター	10月29日 61
	上豊田住民センター	11月 1日 40
	実勢区公民館	11月 8日 37
	健康管理センター	11月 9日 54
	曾根公民館	11月11日 45
	町中央公民館	11月13日 31
	合計	814

No.62 CONTENTS

- 2 【特集】町長と語るつどい
- 9 全国から2,600人のランナーが参加「2010京都丹波ロードレース」
- 10 Dr's Message いきいき健康術
- 11 FLASH KYOTAMBA TOWN NEWS 2010
 - 食生活改善推進員協議会瑞穂支部が受賞
 - ―厚生労働大臣表彰
 - 蒲生野中と瑞穂中がホッケー日本代表選手を輩出
 - ―湯浅優実さんと蒲波愛友里さんが日本代表選出を報告
 - 事例発表から学ぶまちづくりへの取り組み
 - ―京都府生活学校・生活会議連絡協議会研究大会
 - 税行政推進への功績が評価
 - ―納税表彰
 - 京丹波町婦人会が2年連続で総合優勝
 - ―京都女性の健康フェスティバル
 - 魚たちの引っ越しをみんなで手伝い
 - ―天神池生き物引っ越し隊
 - 読書活動への取り組みが評価
 - ―上林あかねさんと蒲生野中、下山小が受賞
 - 地域を盛り上げる秋の恒例イベント
 - ―わちふれあい祭り
 - 心地よく響くfolkloreの音色
 - ―京都府中部文化芸術祭
 - ボランティアでよみがえった権現谷
 - ―さとボランわち仏主
 - 多彩な催しを盛り込んだ地域の手作りイベント
 - ―三ノ宮ふれあいまつり
 - 障害者の社会参加と自立を目指して
 - ―身体障害者福祉大会
 - 上和知中部村おこし委員会が初の交流イベントを開催
 - ―収穫感謝祭
 - 地域文化を伝える展示とステージ発表
 - ―文化祭
 - 利用しやすい公共機関を目指して
 - ―まごころサービスあい愛が町にシルバーカーを寄贈
 - 地域の文化にふれ魅力を再発見
 - ―地域名所めぐり

16 【まちの元気人】坂本亜耶さん

税・行財政について

問 国保税が高くて支払いに困っています。減免制度はありますか。

答 公共料金は、南丹市や同等規模の町と比べていますので突出して高いということはありません。医療費の一部負担金の減免規定はありますが、相互扶助の観点から適用は難しいと考えますし、実績もありません。

問 実質公債費比率は今後どのように推移していくのですか。

答 二十一年度決算で二・八・八%まで改善し、今後も繰上償還を計画していますので、二・三年後には一・六%台になる見込みです。

問 昨年の町政懇談会の説明では未収金などが財政を圧迫しているように感じましたが、現状はどうなっているのですか。

答 京都地方税機構を組織して対応しており徴収率は改善しています。今後も京都府全体で解決していく考えです。

問 人件費削減のために職員を減らすと、公共サービス低下につながります。支所職員の人数を見ても寂しい限りです。雇用の確保もある程度必要ではないですか。

答 職員は現在約二百八十人ですが、本町の理想は二百二十人―二百四十人とされています。縮小均衡で削減するのは、雇用の確保も必要ではないかと考えています。

ではなく、今後は二百四十人を目標として医療や福祉分野などに力を入れていきたいと考えています。

問 利用者が少ないのに借地料を支払っている施設があります。国のように、町でも事業仕分けを実施しているのですか。

答 指定管理料の見直しなど、事業仕分けは常に行っています。施設については一定の時間がかかりますが、活用状況などを考慮し、町民が必要としているかを見極めて予算をつけていきます。

跡地利用について

問 瑞穂地区の小学校統合に伴う、跡地利用についての考え方を聞かせてください。

答 三ノ宮小学校の校舎は耐震基準を満たしていますが、ほかの三校舎は基準を満たしていないのが現状です。現時点で具体案は決めていませんので、地元意向を生かしながら考えていきます。

下水道使用料の改定について

旧町から引き継ぎ、旧町単位で異なっている「下水道使用料」(浄化槽使用者も含む)を、合併協議会の確認事項や町公共料金等審議会の答申に基づき町内で統一するために、使った水量に応じて算定する従量制の料金体系(案)(以下「料金案」)を説明し、質疑を行いました。

問 ほかの自治体と比べると、上下水道料金が高いと思います。何とかありませんか。

答 上下水道整備に多額の投資を行っており、人口密度が低い本町のような自治体はどうしても料金が高くなります。近隣市町も参考にしながら検討した結果、維持管理費が賄える範囲で調整しました。

問 料金案では加入者すべてが値上げとなるのですか。

答 三―四割の方は安くなると試算しています。

問 旧瑞穂病院などの不要施設が多く残っていますが、跡地活用はどのように考えているのですか。

答 解体費用に対する補助がなく難しい問題ですので、まずは財源確保に努めます。

問 料金改定の対象は、浄化槽設置者すべてが含まれるのですか。

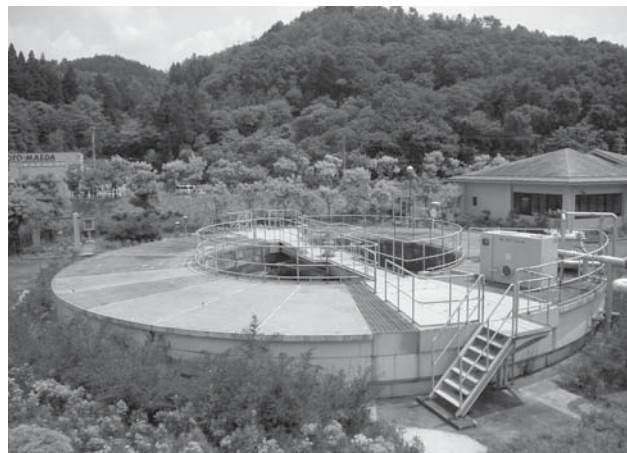
答 町管理の浄化槽についてのみであり、毎月の使用料を徴収していない個人管理分は該当しません。

問 下水道管などの設備改修が必要と思いますが、料金案での今後の見通しを聞かせてください。

答 平成二十六年年度までを想定しており、経過措置期間を設けて段階的に料金案に移行していく予定です。

問 子どもが多い家庭は負担となり大変です。配慮できませんか。

答 審議会の答申に基づき高齢者世帯には配慮しました。それ以外の世帯の事情による配慮はしていません。



快適な生活環境を確保する下水道処理施設(瑞穂浄化センター・橋爪)

水資源・道路・交通

問 町道舗装の結果を見ると、事前に

地域医療について

問 医療等審議会と和知診療所の件を審議すると長期間を要すると思いますが、現状からすれば一日も早い医師確保が必要です。京丹波町病院の分院などで対応できませんか。

答 現在は週一回、京丹波町病院から外科外来診察に医師を派遣しています。一つの形として分院という方法もありますが、そのことも踏まえて医療等審議会で審議いただくとともに、医師確保に向けて最大限努力します。

問 医師確保の見通しを聞かせてください。

答 町としては、農村地域の医療施設として内科医一人増員を要望していますが、本町の医師体制は府立医大が中心ですが、町長在任中に解決したいとの思いで、府立医大や京都府などの関係機関に Outreach をお願いしています。

問 和知診療所を合併前の機能に戻すと言われていますが、京丹波町病院の活用を考えてはどうですか。

答 和知診療所の機能低下は医師の欠員によるものですが、和知地域の方は合併したことが原因と思われるので、疎外感を抱かれています。信頼回復には診療所の機能を回復する必要がありますので、提案についてはその後に考えます。

地元と相談して欲しかったと感じることがあります。事前打ち合わせなどを考えていただけませんか。

答 地元の方と十分協議してから施工するように指導します。

問 国道二七号下山バイパス完成後、旧道沿いの雑草がひどい状態となつていますが何とかありませんか。

答 現在も国土交通省の管理ですので引き続き要望をします。

問 下山バイパスの信号機で稼働していないものがあるのはなぜですか。

答 稼働するには出入口を拡幅する必要がありますが、地元と協力して取り組んでいます。

問 畑川ダムの完成時期と、農業用水としての利用が目的に入っているのかを聞かせてください。

答 平成二十四年度完成予定で、生活用水の確保や事業者への供給を目的としているため、農業用水は対象にしています。

町営バスの運行

問 和知地区から須知高校に進学する生徒が少ない原因の一つとして、交通の便が悪いことがあげられます。ダイヤと

問 町内には京丹波町病院と三つの診療所がありますが、専門的な病気の場合などは大きな病院へ通院するので病院経営は一向に良くならないと思えますし、地方自治体で病院を経営するのは財政的にも大変です。公設民営や民営化という話も聞きますが、民間に移行する考えはありませんか。

答 一般会計からの繰り出しも多い状況です。民間経営も選択肢の一つかもしれませんが、地域医療の確保はみなさんの生活基盤であると認識しているため、在任中の民営化は考えていません。



本町の医療などの将来像を調査、研究する「医療等審議会」

路線を地区単位で考えるのではなく、丹波地区に向かって行くような路線で考えられませんか。

答 スクールバス機能も含めて、みなさんの要望に応えられるような形で充実させたいと考えています。

問 バス路線の変更についての考え方を聞かせてください。

答 路線を大幅に変更する状況にはありません。交通手段確保を目指し、交通懇話会で検討していただきます。

問 丹後で実施されている統一料金の導入は考えているのですか。

答 丹後の方式は本町には合いません。料金は上げることなく路線を一・二本増設するとともに、福祉運送という形で町民の交通手段確保に努めていきます。

問 福祉運送について詳しく聞かせてください。

答 家用自動車の有償運送としてオンデマンドバス(百円―二百円)を想定しています。交通懇話会に諮り、活用できるように検討していきます。

問 本年四月のバス時刻改定により、中学生の下载到支障をきたしています。電車の時刻も含めて調査をし、利用しやすいように検討できませんか。

答 今回はJRのダイヤ改定に合わせてバス時刻を改定しました。利用実態を

産業振興について

問 今年度に商工会が取り組まれたプレミアム商品券は、今後も続けられるのですか。

答 商工会と連携して続けていきたいと思っています。

問 森林を取り巻く問題は、松くい虫被害やナラ枯れなど深刻化しています。町としてどのように考えているのですか。

答 町域の八三%が森林であることから、森林を守ることが京丹波町の振興につながるという認識のもとに施策を拡充し、総合的に山を守っていききたいとの思いで取り組んでいます。ご理解ください。

問 米価の最低基準がかなり安い価格で買い取りされていますが、町独自で上積みするような対策は考えられませんか。

答 町独自では無理なので、今後の検討課題としていきます。

有害鳥獣対策について

問 有害鳥獣が出現してもすぐに猟友会が出動できない現状なので、町職員が狩猟免許を取得して対応することはできませんか。また、有害鳥獣対策をどのように考えておられますか。

答 狩猟免許の取得は思うようにはい

把握し、できる限り利用しやすいように検討していきます。

ケーブルテレビ

問 当初は基本料金でNHKのBSデジタル放送が視聴できると聞いていたが、チラシに月額五百円必要と書かれていたのはなぜですか。また、各戸でパラボナアンテナを設置して視聴というのはどういうことですか。

答 NHKとの再送信契約の際、「制御せずすべての世帯に配信すること」が義務付けられ、当初の計画どおりデジタル電波を送信すると視聴を希望されない家庭にも配信することになることから、アナログの周波数に変換して配信しますので、アナログ放送ならそのままご覧いただけますが、デジタル放送の視聴にはセットトップボックスが必要となり、テレビ一台につき月額五百円の利用料がかかります。なお、各家庭でパラボナアンテナを設置いただくことでNHKのデジタル放送が視聴できます。

問 一般質問の最後に議会放送が終了しますが、最後まで放送できませんか。

答 機械類の容量が小さいことから、現在は一人三十分を割り当てて放映しています。デジタル化に備えて機器類の更新を考えていますので、今後検討します。



兵庫県と京都府にまたがる丹波地域の活性化を目指して設立された「大丹波連携推進協議会」

きません。さまざまな対策を講じていますが、決定打がないのが現状ですので、猟友会と連携するしか方法はないと考えます。市町村だけでは対応できない課題なので、国への要望などにより対処していきます。

問 サルの被害は、町内だけではなく篠山市からの影響があります。他府県と連携して捕獲などを行えませんか。

●答 兵庫県と京都府の関係市町が丹波連携として取り組んでいますので、今後は住民に分かるように進めていきます。

●問 特別保護地区に指定されている区域では、特別な対策を考えてもらえないのですか。

●答 バツファーン(緩衝地帯)を整備する実験を升谷地内で行っています。効果があれば国や府の対策として取り組めますし、町としても全町に広げていきます。国あがりの対策が必要ですので、被害が最小限に食い止められるよう要望していきます。

●問 町内でクマの出没情報の伝達が徹底されていませんが、危機管理はどうなっているのですか。また、放送はすぐにできるようになっているのですか。

●答 放送はすぐできるようにしています。学校関係とも情報を共有し、早く対応できるようにしています。今後も、クマによる被害が発生しないよう京都府南丹広域振興局と対策を協議していきます。

●問 農事組合単位で狩猟免許を取るなど、猟友会の後継者確保に対する補助をしてもらえませんか。

●答 狩猟免許取得に対しては、講習会受講料一万二千元、受験手数料三千元を補助し、これに加えて銃猟免許取得に助

●問 区の要望に対する回答が非常に遅くなっていますが、どうなっているのですか。

●答 最低でも三か月以内には回答すべきと考えていますので、今後そのようなことがないように指導します。

●問 区からの要望に対して「優先順位があるため」この回答をいただきますが、ある程度の年度計画と期限を決めてもらえませんか。

●答 現在も整理していますが、そのように指示します。

●問 本年度から京都丹波ロードレースの主催者に町が参画し、五十万円程度負担していますが、せめて百万円ぐらいは負担すべきではないですか。

●答 金額ではなく、主催者として事業に関わることが大切と考えています。

消防・防災について

●問 AED(自動体外式除細動器)を区の公民館などに設置できませんか。

●答 検討していきます。

●問 消防団員の確保が困難なため定員割れをしています。女性団員の募集を考えてはどうですか。

●答 現在は男性ですが、今後は女性団員についても検討します。

成金十万円、計十二万五千円を補助しています。

PR 観光振興について

●問 協力会でPRもしていますが、質志鐘乳洞の来客数が減少しています。協力会だけでは無理がありますので、町の応援をお願いできませんか。

●答 観光協会の設立を検討中であり、できればその中で協議を進めたいと考えています。

●問 観光協会の立ち上げについて聞かせてください。

●答 現在は点の状態である観光資源を線で結び、観光産業を発展させるために観光協会を立ち上げます。委員構成などについて行政内部で検討しており、商工会と相談しながら進めていきます。

●問 「観光協会を設立し、特産のブランド化を図る」との新聞記事を見ましたが、コメをブランド化して販売してはどうですか。また、国道九号・一七号・一七三号を黒豆ロードとし、統一したのぼり旗や法被を作つてPRしてはどうですか。

●答 行政や観光協会がブランド化するのではなく、生産者が中心となって実施されることを支援していくように考えています。

その他

●問 人口減少が進み、地域格差もできていますが、将来的にさらなる合併を考えているのですか。

●答 今回の合併を検証し、良かったのか悪かったのかの結論を出す必要がありますので、現状では考えていません。

●問 文化財を個別に保管していますが、盗難などに遭わないよう町の空き施設を活用して展示や保管をしてはどうですか。

●答 積極的に検討していきます。

教育振興について

●問 須知高校へ進学する生徒が減少傾向にありますが、どのように考えていますか。

●答 須知高校にも努力してもらっていますが、町立中学校の生徒数は十年後には百人程度になる見込みであり、ほかの地域からきてもらえるように京都府に強く要望し、一緒に対策を考えています。町としては、バス路線の充実などにより全面的にバックアップしていきます。

●問 高校卒業者の就職率が非常に低い状況ですが、地元で就職できるような対策は講じないのですか。

●答 畑川ダム完成を見据えて企業誘致を進めます。また、京都縦貫自動車道開通に併せて丹波パーキング(塩谷)で野菜販売や地産地消費を検討していますので、町内雇用につなげたいと考えています。

●問 須知高校は歴史ある学校であり、食品科学科もあります。酒やみそなどの発酵食品や発酵学を専門とする学校は全国的にも少なく、学生はほとんど東京農業大学へ進学すると聞きますが、大学と連携し新たに専門的な学科を新設してはどうですか。

●答 大切な意見ですので、機会があれば提言します。

●問 高齢者の所在不明が問題となっていますが、何らかの調査で分からないのですか。

●答 死亡届を提出されない限り、戸籍は除籍できません。なお、本町では年金の不正受給で問題となる事例はなかったと報告を受けています。

●問 支所機能の充実として、支所へ行くにはある程度のことに対応できるようにしてもらえませんか。

●答 職員は少なくとも、すぐに対応できるように努めます。

●問 住宅改修制度の内容はどのようなものですか。

●答 要綱は出来ていませんが、平成二十三年四月から住宅改修への補助をしたと考えています。

●問 ホームページは、地域ががんばっている姿やイベント情報などの発信を考えてリニューアルするべきではないですか。

●答 今年度リニューアルを計画しています。

●問 町内には結婚したくてもできない人がたくさんいますが、縁結びのような取り組みしてもらえませんか。

●答 京都府や近隣自治体と連携して、仲人的なことを取り組みたいと思います。すでに、京都府には婚活ネットワークを要望しました。

地域支援について



町職員と地域住民が協力して開催した「わち西部元気づくり大運動会」(西部グラウンド・広野)

●問 住民自治組織の運営方法や存在価値について聞かせてください。

●答 集落単位での行事ができていく部分については、集落が連携した取り組みを行うものです。和知地区の取り組みの一例を紹介すると、町職員も役員をし、区長が顧問に就任して運営しています。これからも職員が一生懸命汗をかき、住民とともに力を合わせることで地域活性化につなげることが大切だと考えています。



●問 現在の本庁舎は度重なる増築で課の位置が分かりづらい状況です。新庁舎を建設する計画はありますか。

●答 必要性は感じていますが、先に対処しなければならぬ問題が数多くありますので、任期中の建設は考えていません。

●問 幹部職員が分散し、各集落の公民館などでつどいを開催することで、地区の身近な疑問や質問を懇談するほうがよいのではないですか。

●答 集落別の開催が最善と考えますが、町長が出席できない集落ができることを懸念します。実施方法については今後検討します。





全国から2,600人のランナーが参加 「2010京都丹波ロードレース」

11月3日、丹波自然運動公園で開催された「2010京都丹波ロードレース」(町、船井郡陸上競技協会、丹波自然運動公園主催)。今年全国各地から約2,600人のランナーが参加し、ハーフマラソン、10km、5km、3kmのコースに分かれて、沿道の温かい声援を受けながら秋色に色付く美しい景色の中を駆け抜けました。また、同公園内では「うまいもの市」や「菊花展」なども行われ、訪れた多くの人でにぎわいました。



開会式
大会会長の寺尾豊爾町長が「自然豊かな秋の丹波路を満喫しながら、走る楽しさを実感し、友情の輪を広げてください」とあいさつしました。



表彰式
28部門(男女別・年齢別)で上位6位までに入賞した選手に対し、主催者から賞状などが手渡されました。



菊花展
菊で作った五重塔や菊愛好家が丹精込めて育てた鉢植えなどが数多く展示され、会場の雰囲気盛り上げました。



うまいもの市
特産品や旬の食材を使った料理などを販売する出店が立ち並び、走り終えた選手たちが秋の味覚を満喫していました。

まちづくりへの 提言と アンケート結果

つどいでは、町政への質問や意見だけではなく、幅広い視点でまちづくりなどを見据えた提言、住み良い環境づくりを目指した要望、地域に特化した身近な課題などが活発に議論されました。要望や提言の主なものおよびアンケート集計結果をお知らせします。

なお、持ち帰って検討する旨をお伝えした内容については、個別に回答させていただきます。

要望・提言のつどい

若い人が出て行かないような環境づくり、町外へ出て暮らす環境づくりを努めてもらいたい。

寝たきりの在宅高齢者への援助をしてもらいたい。ソフト面でも気配り目配りのきく町政をお願いしたい。

職員は机上で仕事をしているだけでなく、現地へ出て住民とのコミュニケーションをとるよう意識改革をし、和やかで温かみのある対応を望む。

財政は厳しいが、夢を持ち、実現できるようにがんばってほしい。

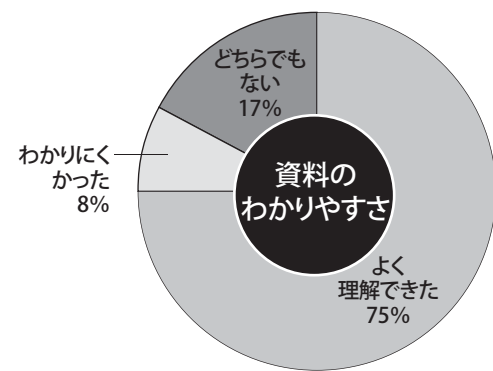
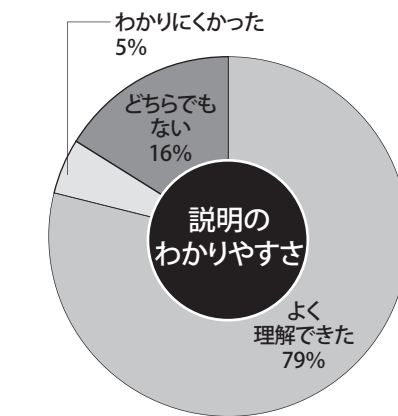
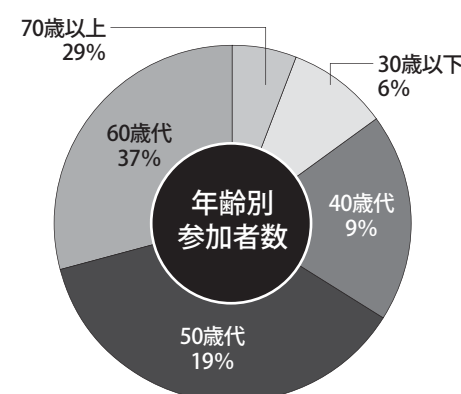
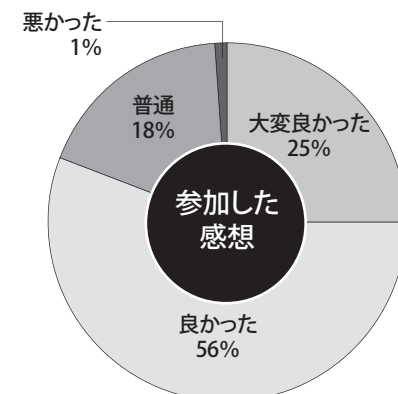
小学校統合後の廃校舎活用として、ティサービスなどの高齢化対応に活用してもらいたい。

地上デジタル化という国の施策によってテレビ買い替えなどの負担を強いられるので、補助について国や府へ要望してもらいたい。

高齢化対策の一環として、新規就農希望者に対する住居の斡旋や提供、補助などを考えてもらいたい。

アンケート集計結果

今後の開催に向けた参考とするために実施したアンケートには、参加者八百四十四人中、五百五十七人の方に協力いただきました。「年齢」「感想」「資料や説明のわかりやすさ」など、お聞きした項目の集計は次のグラフのとおりです。
なお、自由記入欄に書き込んでいただいた意見などについては、より良い内容で実施できるように検討していきます。





表彰を受けた瑞穂支部のみなさん
(瑞穂保健福祉センター・和田)

食生活改善推進員協議会 瑞穂支部が受賞

厚生労働大臣表彰

このほど、町食生活改善推進員協議会瑞穂支部が、栄養関係功労者として厚生労働大臣表彰を受賞しました。

同支部は、昭和四十五年に発足して以来、生活習慣病の予防を目的とした調理実習やレシピ配布などを積極的に実施するとともに、地域住民の健康づくりに役立てようと、高血圧症予防に役立つ野菜摂取や減塩みそ汁の普及などによる食生活改善に努められてきた功績が認められての受賞です。

受賞を受けて、同支部の田村明子支部長は「現在活動している会員だけではなく、先輩方の努力が認められた結果なので、設立四十周年の記念の年に立派な賞をいただき光栄です」と感想を話されました。

おめでとうございます。

『薬の飲み方と一包化について』

このコーナーは、町立病院・診療所の医師や専門職員がみなさんにお届けする健康情報コーナーです。

今回の担当は京丹波町病院の薬剤師 松村陽子さん。病気の治療に欠かせない薬の服用方法についてのお話です。

医

療機関で受診された際、薬局では、医師の指示に従って病気の症状などに応じた薬をお渡ししています。薬による副作用を防ぎ、安全に使用するためには、用法や用量などを守っていただくとともに、次のとおり服用時期に注意してください。

【食前】

食事三十分前のことをいいます。食事より前に体内に入っている必要性のある薬や、子どもが吐くのを少しでも防ぐために、この時間に服用します。

【食直前】

食事のすぐ前のことをいいます。

【食間】

食事と食事の間で、食後約二時間のことをいいます。薬にとって食物の存在が好ましくない場合などはこの時間に服用します。

【食後】

食後約三十分以内のことをいいます。多くの薬が食後の服用となっているのは、胃の中に食べ物があることで薬による刺激を和らげるとともに、飲み忘れを少なくするためです。

【寝る前】

就寝の約三十分前のことをいいます。

■「一包化」で飲み忘れ防止を

一包化とは、一回に何種類かの錠剤と粉薬を服用する場合などに、薬を機械にかけて一袋にまとめることです。一回分の袋を開ければ薬が正しく服用でき、いくつもの錠剤を取り出す手間がなくなります。薬の種類が多く、どれが一回分かかわらないうきなどは、気軽に相談してください。



まつ村陽子 薬剤師 松村陽子さん(京丹波町病院)

蒲生野中と瑞穂中がホッケー日本代表選手を輩出

湯浅優美さんと滝波愛友里さんが日本代表選出を報告

十一月十七日、平成二十二年U-16ジュニアユース・オーストラリア遠征(十一月二十七日―十二月七日)の日本代表選手に選ばれた湯浅優美さん(蒲生野中・三年)と滝波愛友里さん(瑞穂中・三年)、選手団のコーチに選ばれた久保克敏教諭(蒲生野中)が役場町長室を訪れ、畠中副町長と朝子教育長に出場報告を行いました。二人は小学四年からホッケーを

始め、湯浅さんはスピードを生かしたドリブル、滝波さんは巧みで俊敏なプレーを得意とし、共にフォワードの主力選手として活躍。九月に福井県で行われた選考会では、得点力などが高く評価され、日本代表に選ばれました。

遠征への思いを聞くと、湯浅さんは「多くのみなさんの支えに感謝し、蒲生野中生としての自覚と誇りを胸に、チームに貢献できるようがんばってきます」、滝波さんは「チームの役に立てるように、フォワードとして点をとれるよう持って



遠征への意気込みを語る湯浅さん(右)と滝波さん(役場町長室・蒲生)

事例発表から学ぶまちづくりへの取り組み

京都府生活学校・生活会議連絡協議会研究大会

京都府生活学校・生活会議連絡協議会研究大会(同協議会、財団法人あしたの日本を創る協会主催)が十一月六日、和知ふれあいセンターで行われ、町内外から約九十人が参加しました。

同研究大会は、地域住民が支えあいながら住みよいまちづくりを推進することを目的に、情報交換や意見交流を行う場として実施。この日は、オープニングで和知太鼓保存

会が演奏した後、開会式や講演、実践発表が行われました。

実践発表では、須知高校食品科学科の生徒たちが「地域食材を生かした食品づくり」と題して、まめおやの会などの京丹波プロジェクトをはじめ、丹波食フェスタ二〇〇九でのチキンソーセージの取り組みなどの事例を発表し、最後に「これから京丹波町の活性化に貢献できるようにがんばります」と力強く決意を述べました。

ほかに、本町の質美生活学校・会議が行っている地域ぐるみでの子

育て活動をはじめ、長岡京市・舞鶴市・京田辺市の生活学校がそれぞれ取り組み事例を発表しました。



パワーポイントを使って事例発表をする須知高校の生徒(和知ふれあいセンター・本庄)

税 行政推進への 功績が評価

■納税表彰

平成二十二年度納税表彰式が十一月十二日、南丹市国際交流会館で行われ、堀吉宏さん(本庄)が園部税務署長納税表彰、岡本均さん(須知)が園部納税協会長感謝状、田端真子さん(蒲生)が「当たり前前に鈍感になっていた私」と題した作文で園部税務署長賞を受賞しました。堀さんは、平成十八年五月から現在に至るまで園部納税協会常任理事を務め、常に率先して申告納税制度の普及や発展に貢献されてきた功績が認められての受賞。岡本さんは、平成十年五月から二十二年五月まで同協会常任理事を務め、納税意識の高揚と協会の発展に貢献されてきた功績が認められての受賞です。おめでとうございます。



受賞されたみなさん。左から、堀さん、田端さん、岡本さん(南丹市国際交流会館・南丹市)

京 丹波町婦人会が二年連続で総合優勝

■京都女性の健康フェスティバル

第二十五回京都女性の健康フェスティバル(京都府連合婦人会主催)が十月三十一日、グリーンランドみずほかがやき広場で行われ、会員約五百人が参加しました。

このイベントは、昭和六十三年の京都国体を契機に始まり、会員相互の親睦と健康増進を目的に、府内各地に会場を移して実施。今回は、恒例の「バスル競技」「綱引き」「玉入れ」の三種目に加え、開催地の特色を生かした「丹波特産宅配便(リレー)」「ホッケーでチャンピオン」

した天気になあれ(長靴飛ばし)の三種目を合わせた六種目で順位を競いました。

この日は、町婦人会員による銭太鼓・よさこい踊りでオープニングを飾った後、西村恵美子実行委員長(町婦人会長)の開会宣言を皮切りに、優勝杯返還や選手宣誓などを実施。競技が始まると、町婦人会が圧倒的な力を発揮し、次々と好記録を打ち出していきました。

大会結果は、町婦人会が四種目(バスル、ホッケー、綱引き、玉入れ)で優勝し、二年連続で総合優勝の栄誉に輝きました。



チームワークを生かしてバスルの絵柄を完成させる参加者(グリーンランドみずほ・大村)

魚 たちの引っ越しをみんなでお手伝い

■天神池生き物引っ越し隊

天神池生き物引っ越し隊が十一月二十三日、下山区知野辺地内にある農業用ため池「天神池」で行われ、地元住民ら約五十人が参加しました。

この取り組みは、昨年から行っている天神池の改修工事がほぼ完成したことを受け、レスキュー活動により近くの安全なため池へ移していたコイやナマスなどを元の場所に戻すもの。開会式では、知野辺区長の

桐野哲さんが「昨年九月に移動した魚たちを元の場所に戻す作業なので、やさしく大切に扱っていただき、みなさんのおかげのないようにしてください」とあいさつしました。

作業が始まると、肌寒い気候の中、参加者は網を使ってやさしく魚をすくい上げた後、水槽やバケツに入れて天神池まで運び、「元気で暮らしてね」などと言いつつと放していました。作業終了後には、地元住民から豚汁と焼きいもが振る舞われ、参加者らは冷えた体を温めな



天神池に魚を放す子どもたち(天神池・下山知野辺地内)

読 書活動への 取り組みが評価

■上林あかねさんと 蒲生野中、下山小が受賞

十月二十三日、明治国際医療大学で、「おすすめの本紹介カード」と「なんたん みんなで読もう! 読書キャンペーン」の表彰式が行われました。主な受賞者は次のとおり。(敬称略)

●おすすめの本書紹介カード
【京都府南丹教育局長賞】
上林あかね(瑞穂中・三年)

【学校賞】
蒲生野中学校

●読書キャンペーン
【京都新聞社賞】
下山小学校



表彰を受ける下山小学校の日下部校長(明治国際医療大学・南丹市)

地 域を盛り上げる 秋の恒例イベント

■わちふれあい祭り

住民力の高揚を図る「わちふれあい祭り」(一〇)(同実行委員会主催)が十一月二十日、道の駅「和」と道路情報センター一帯で開催されました。

会場では、各種団体による「うまいもんコーナー」や「みんなの参加販売コーナー」に三十四組織が出店される中、和知太鼓保存会による呼び込み太鼓を皮切りに、町婦人会有志によるよさこい踊り、枝豆ソング歌手の奥野ひかるさんによるライブ、お楽しみ抽選会など盛りだくさんのイベントを実施。また、ふれあい朝市や伝統芸能の定期公演、わちエンジェル絵画展、交通安全ポスター展なども行われ、町内外から訪れた多くの人たちにぎわいました。



多くの人でにぎわう祭り会場(道の駅「和」・坂原)

心 地よく響くフォルクローレの音色

■京都府中部文化芸術祭

京都府中部文化芸術祭「ふれあいフォルクローレ」(同芸術祭実行委員会主催)が十一月三日、丹波自然運動公園こどもの広場で行われ、多くの親子連れらでにぎわいました。

同芸術祭は、おたやかな楽器の音色と聴く人の心をやさしく包み込むフォルクローレ(民族音楽)の世界を身近で味わってもらうことを目的に実施。この日は、中部地域で活動する音楽グループ四組が出演し、アメリカのジャズやア・カペラ、北欧のケ



ケルト音楽を奏でる出演者(丹波自然運動公園・曾根)

ボ ランティアでよみがえった権現谷

■さとボラ in わち仏主

さとボラ in わち仏主(仏主区、京都府 町主権)が十一月十三日、仏主地内の権現谷溪谷道と七色の木周辺で行われ、都会からのボランティアや地元住民ら三十六人が参加しました。

この取り組みは、京都の自然(一〇)選の「権現谷」と「七色の木」周辺が平成十六年の台風被害を受けて荒れた状態になっていることから、ボランティアを募って美化作業や災害復旧活動などを行うもの。参加者は、溪谷道をふさいでいた流木の除



流木の除去作業に励む参加者(権現谷溪谷道付近・仏主)

多彩な催しを盛り込んだ地域の手作りイベント

■三ノ宮ふれあいまつり

第五回三ノ宮ふれあいまつり(同実行委員会主催)が十一月二十一日、三ノ宮米蔵倉庫とその周辺で行われ、多くの参加者でにぎわいました。この祭りは、三ノ宮地区の住民が世代を超えて交流を深めることを目的に、三ノ宮地域振興会の事業の一環として実施。この日は、地元農産物の展示即売コーナーや模擬店をはじめ、三ノ宮小の児童による鼓笛と踊りのパレード、三ノ宮城跡での記念モノユメント作り、三ノ宮おもしろ王座決定戦(縄ない競争、



風船を使ったマジックショーを楽しむ参加者(三ノ宮米蔵倉庫前・三ノ宮)

大根の柱むき競争、紙飛行機飛ばし競争)などの多彩な催しが行われ、参加者たちを楽しませました。また、米蔵ショーでは、落語や風船を使ったマジックショーなどを実施



子どもたちが見守る中、大根の柱むき競争に挑戦する参加者

マジックショー終了後には、希望者全員に風船で作った人形(犬・うさぎ・剣)がプレゼントされ、受け取った子どもたちからうれしそうなお喜びの声が聞かれました。

障害者の社会参加と自立を目指して

■身体障害者福祉大会

第五回京丹波町身体障害者福祉大会(町身体障害者福祉会主催)が十月二十九日、山村開発センターみずほで開催され、約百人が参加しました。

同大会は、身体障害者の社会参加と自立意欲の高揚を図ることを目的に、毎年実施。今回は、開会セレモニーで松山保育所の園児が「おひもころころ」など振り付けを交えて歌った後、同会の「谷静夫会長が」す

べての町民が生き生きと暮らせる福祉のまちづくりを推進するために、福祉会も一層努力をしていきます」と開会あいさつをしました。

続いて、表彰式が行われ、同会会長表彰の自立更生の部で森田悟さん(須知)、才村美智代さん(大簾)、畑中チヨノさん(栗野)、援護功勞の部で大田幸作さん(大迫)が受賞。その後、来賓祝辞や大会決議、講演、アトラクションなどが行われ、参加者は暮らしやすい環境づくりや愛とふれあいの地域社会確立に向けて決意



開会あいさつをする一谷会長(山村開発センターみずほ・大朴)

を新たにしていました。

上 和知中部村おこし委員会が初の交流イベントを開催

■収穫感謝祭

六月に発足した上和知中部村おこし委員会(白檜貢会長、委員三十一人)が主催する初の交流イベント「収穫感謝祭」が十一月十四日、篠原体育館とその周辺で行われました。同会は、篠原・大迫・長瀬・塩谷・上乙見・下乙見の六集落でつくる集落連携組織で、集落が連携して地域運営を行う「住民自治組織」への成熟に向けた事業を展開。収穫感謝祭は、地域の文化や資源を生かした催しを通じて、六集落の住民らが交流や親睦を深める場として実施されました。



料理を味わいながら親睦を深める参加者(篠原体育館・篠原)

地域文化を伝える展示とステージ発表

■文化祭

平成二十二年京丹波町文化祭(町文化協会主催)が十一月六日―八日の三日間にわたって行われました。

文化祭は、同協会に加盟する団体が日ごろの練習成果を発表する場、丹精込めて作成した作品を披露する場として、展示とステージの二部構成で実施。展示の部は、町中央公民館で三日間を通して行われ、出展された写真や絵画、陶芸などの力作に、多くの人たちが興味深く見入っていました。

また、ステージの部は、十一月七日に山村開発センターみずほで行われ、二十九団体が出演。ステージでは、地域の伝統芸能をはじめ、歌や踊り、ピアノ演奏などが次々と披露され、来場者を楽しませました。



息の合ったコーラスを披露する出演者(山村開発センターみずほ・大朴)

利用しやすい公共機関を目指して

■まごころサービスあい愛が町にシルバーカーを寄贈

十一月八日、NPO法人まごころサービスあい愛からシルバーカー六十台を町に寄贈いただきました。

寄贈に際し、越川壽枝代表は「利用者の悩みや相談に応じてサービスを提供する中で、『シルバーカーが公共機関にも備え付けてあればいいな』との声を受け、創立十周年を記念して寄贈しました。多くのみなさんに利用していただければうれしく



寺尾町長に目録を手渡す越川代表(役場町長室・蒲生)

思います」と話されました。

シルバーカーは、京丹波町病院と



寄贈いただいた歩行補助用シルバーカー

和知診療所に備え付けていますのでご利用ください。

地域の文化にふれ魅力を再発見

■地域名所めぐり

北部振興会(江本正昭会長)が十一月二十一日、地域内の文化資源や



歴史や由来の説明を受けながら名所を巡る参加者(淡嶋神社・西河内)

名所などを巡る「地域名所めぐり」を行い、地元住民三十二人が参加しました。

この取り組みは、地域住民が各地の名所などを訪れることで、地域の素晴らしさを見つめ直し、魅力を再発見することを目的に、京都府の「命の里」事業を取り入れて実施。参加者はマイクロバスを使って、西河内区、淡嶋神社、下栗野区、経王塚、上栗野区、池本寺、仏主区の屈折地蔵など計九箇所を見学し、「長年住んでいるが北部にも素晴らしい名所があることが改めて分かった」など、地域の大切な文化財

わたしたちの町

人口	16,658(-24)
男	7,865(-7)
女	8,793(-17)
世帯数	6,451(+3)
12月1日現在/()は前月比	

を間近で見た感想を話していました。その後、仏主の水車による精米や発電の状況、長老の里グループによるもち加工の実態などを学び、地域資源を生かした取り組みへの新たな一歩を踏み出しました。

まちの
元気人第十回全国障害者スポーツ大会
百メートル、二百メートル、四百メートルリレーの三種目で銀メダルを獲得坂本
亜耶さん(17歳) 蒲生野好きなことを見つけて
楽しみながら続けることが大切。

「銀メダルが三個も取れてうれしい気持ちでいっぱいですが、一位の選手と接戦だったので悔しさもあります」と話すのは、十月二十三日―二十五日に千葉県で開催された「第十回全国障害者スポーツ大会」に京都府代表選手として出場し、百メートル(記録一四秒九九)、二百メートル(記録三〇秒九二)、四百メートル(記録一四秒九九)の三種目で銀メダルを獲得した坂本亜耶さん。

坂本さんが陸上競技に興味を持つようになったのは、丹波養護学校・高等部一年の時に、担任教諭に勧められて全京都障害者陸上競技大会に出場したことがきっかけ。「初めて出場した陸上大会で、百メートル、四百メートルリレーで銀メダルが取れたことから走る楽しさを感じました」と当時を振り返りながら話す坂本さん。昨年も同大会に出場し、百メートル連続金メダルを獲得。その記録が評価されて京都府代表選手に選ばれました。

代表選出を受け、坂本さんは本年六月から丹波自然運動公園で行われた合同練習会で本格的なトレーニングを実施。「暑さが厳しく、体力が持たなくて思った以上にきつい練習でした」と猛暑の中での過酷な体験談を話されました。

全国大会の思い出を聞くと、「チームメイトと励まし合い、一致団結できたことがとてもうれしかったし、みんながいてくれたからがんばることができました。大会を通じて、ボランティアスタッフの方とも交流を図ることができたので、出場できて本当によかったです」と笑顔を見せる坂本さん。

これからの抱負を聞くと、「走るのが好きなので、今回の記録が更新できるように陸上競技を続けていきます。みなさんも好きなことを見つけて楽しんでください」とメッセージを交えて話す坂本さん。その表情は喜びに満ちあふれていました。

編集後記

クリスマスのイルミネーションが彩り鮮やかに点灯し、年の瀬を感じる季節になりましたが、みなさんいかがお過ごしですか。今年も多くの方々のお力添えをいただき、広報紙とお知らせ版を毎月発行することができました。本当にありがとうございました。

今後も、見やすいレイアウトとわかりやすい文章表現に努め、よりよい広報紙を目指すとともに、以前の編集後記で書いていた「子育て」の特集ができるように精一杯がんばりますので、ご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。これから寒さ厳しくなりますが、体調管理にはくれぐれも気を付けていただき、良い年をお迎えください。(K)